



西川町

地域新エネルギー ビジョン

概要版

新エネルギーを利用して地域課題を解決します!

農林業を基盤にした産業活性化への取り組みを強化

遊休地などの土地利用対策を強化

総合的な雪対策を強化

豊かな自然と調和したまちづくりの推進

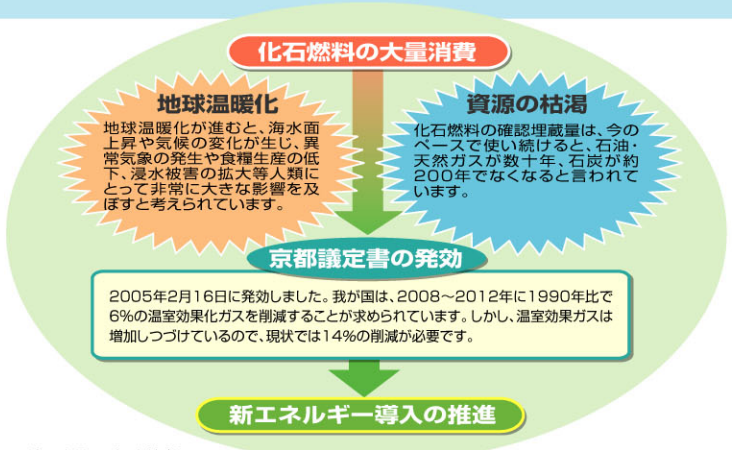
平成18年2月

西川町

新エネルギービジョンとは・・・

「地域新エネルギービジョン」は、現在の化石燃料依存型のエネルギー体制を、地域内に眠る自然エネルギーやコージェネレーション*1などの新エネルギーへ転換することを目的とした将来計画です。地域の資源を活用し、環境と調和した地域づくりの方向を探り、地域の持続的発展、地球環境の保全、快適で便利な生活環境を創出することを目指します。

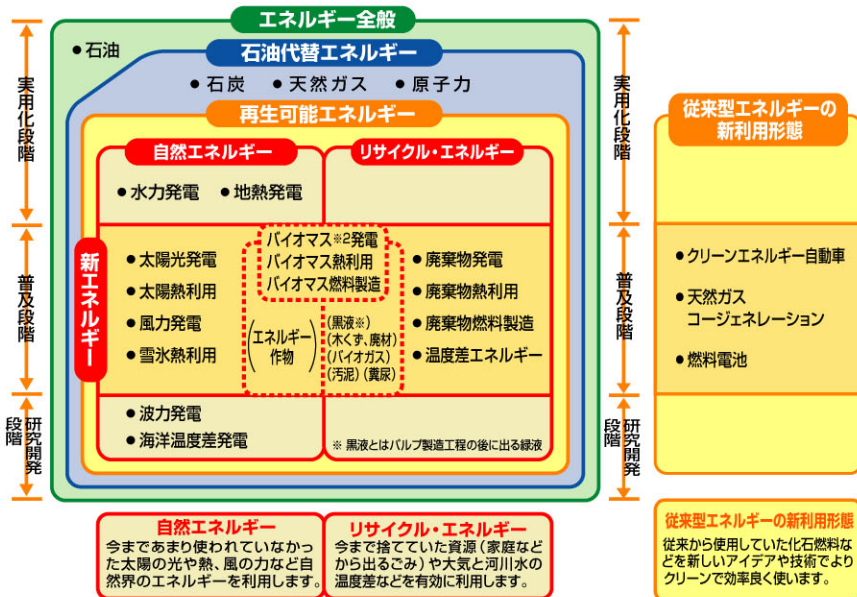
*1 コージェネレーションとは、ひとつのエネルギーから電気・熱など複数のエネルギーを取り出す仕組み。



新エネルギーとは・・・

新エネルギーとは、平成9年に施行、平成14年に改訂された「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」で、「新エネルギー利用等」として規定されたエネルギーのことです。一般に、新エネルギーは、太陽エネルギー、風力エネルギーなどクリーンで資源の制約がない「再生可能エネルギー」、廃棄物や排熱を利用する「リサイクル型エネルギー」、従来のエネルギー利用の高効率化や環境との調和を図る「従来型エネルギーの新利用形態」の三つに分類されています。

中小水力は、新エネルギーに分類されていませんが、水の豊富な西川町では、再生可能な自然エネルギーとして、地域新エネルギービジョンに含めました。



*2 バイオマスエネルギーとは、木材や植物などの有機物を利用する再生可能なエネルギー。

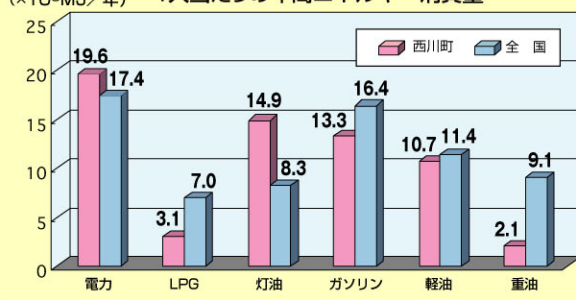
西川町におけるエネルギー消費量

西川町の一世帯当たりの電気使用量は6.9MWhです(東北電力提供資料より)。これは、山形県の1世帯当たりの年間電力消費量6.1MWhより若干高い値といえます。また、一世帯当たりの年間灯油消費量は1,528L、一世帯当たりの年間軽油消費量は1,024Lです(西川町内燃料販売店アンケート結果より)。

西川町におけるエネルギー消費量

西川町のエネルギー消費量を全国平均と比較すると、LPGと重油が大幅に少なく、電力と灯油が多いことがわかります。特に灯油は熱量換算で14.9×103MJを消費しており、これは全国平均のおよそ1.8倍にあたります。

(×10³MJ/年) 1人当たりの年間エネルギー消費量

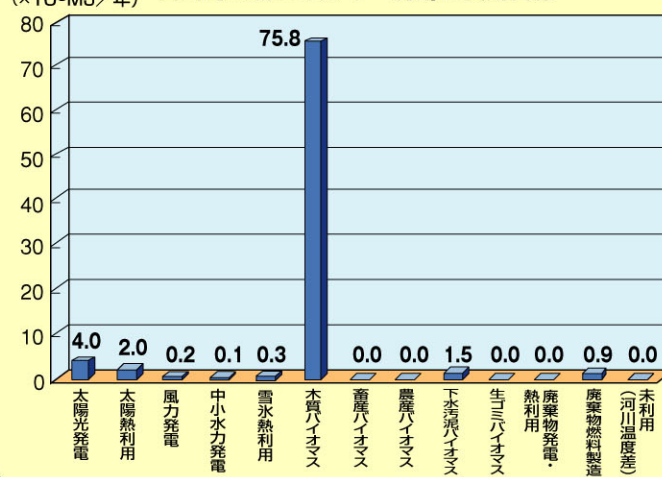


西川町における新エネルギー利用目標

西川町における新エネルギーの資源量のうち、利用可能なエネルギー量を①中期的な目標として(計画目標:10~20年)、並びに②長期的な目標として(計画目標:20~30年)を推計しました。③短期的な目標として導入を目指す重点プロジェクト(計画目標:10年以内)については、地域新エネルギービジョンの重点プロジェクトとして右半ページで紹介します。

中期的な目標として利用可能なエネルギー量は、92世帯分の年間電力消費量と551世帯分の年間灯油消費量、加えて14世帯分の年間軽油消費量を賅えるエネルギー量といえます。長期的な目標として利用可能なエネルギー量は、183世帯分の年間電力消費量と1,416世帯分の年間灯油消費量、加えて22世帯分の年間軽油消費量を賅えるエネルギー量といえます。どちらも、最も高いエネルギー量が、バイオマス発電・熱利用(木質バイオマス)、次いで太陽光発電となっています。

(×10⁶MJ/年) 西川町の新エネルギー利用の長期目標



西川町における新エネルギー導入実現に向けての取組み

一次産業を基盤にした産業活性化

山林を頂点とし、里と人をつないだ取り組みを一体的に進めることが西川町らしい地域産業の活性化にもつながるため、下記の取り組みを進めながら新エネルギー導入を図っていくことを検討していきます。

町の特産品としての山菜・キノコ・花木等の温室栽培などの熱源として、木質ボイラーの利用と合わせ、住宅建材への町内木材の供給強化及び製品の生産強化を進めます。

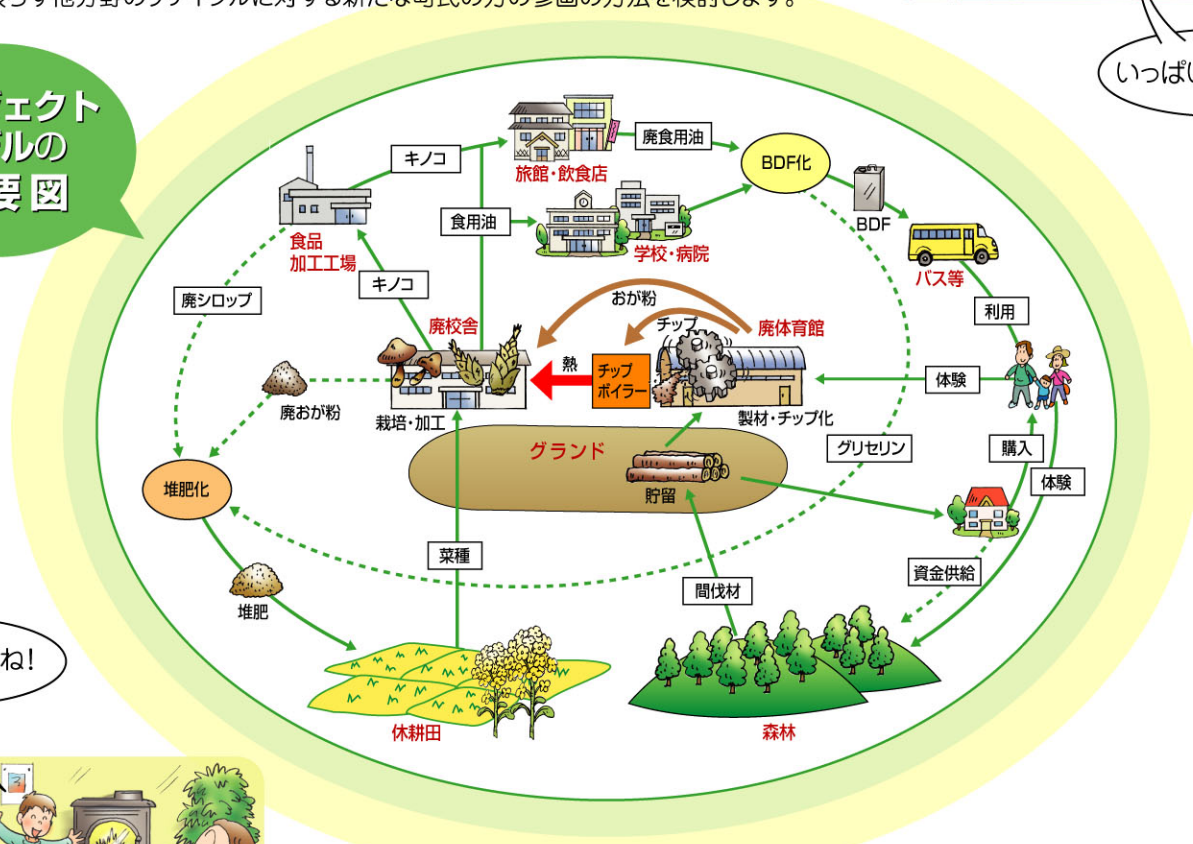
遊休地などの町内の土地利用対策

町内の農地における耕作放棄地は年々増加しており、その有効活用が急務となっています。現在のところ、実現性の高い廃食用油のBDF（バイオディーゼル燃料）化にあわせ、遊休地に菜の花を植栽し、菜種油を搾油、町内で利用していく重点プロジェクト（菜の花プロジェクトなど）を進めます。たとえば、菜の花プロジェクトに廃食用油の収集率の向上を目指して、地域の児童・生徒（栽培参加）や婦人会（菜の花油の利用）、農家（栽培地の提供）の方に参画いただくなど、廃食用油に限らず他分野のリサイクルに対する新たな町民の方の参画の方法を検討します。



いっぱいとれたね!

プロジェクトモデルの概要図



ポッカポッカだね!



総合的な雪対策

新エネルギーは、住宅の屋根や敷地の融雪に利用したいという意識が最も高くなっています。融雪・除雪に関する新たな助成制度創設を検討し、町民の方の住宅づくりの参考となる西川町にふさわしい雪に強い環境共生型のモデル住宅の建設を推進します。

自然と調和したまちづくりの推進

町民の方の森林や水に対する意識は高く、新エネルギーの利用に関連付け、恵まれた自然や歴史文化を継承するための環境学習を行うことは、地域特性や地域環境の保全の面からもふさわしいものと考えられます。また、新エネルギー導入促進のための施策として、情報提供を望む声が高く、新エネルギーに関する環境学習を第一に進めることは重要と考えます。

町の広報誌やお知らせ、ホームページ等を通じて、新エネルギーの導入状況や計画について、定期的な報告を行うとともに、小中学校や公民館での出前講座（身近な新エネルギー機器の紹介や省エネの工夫等）や町内のイベント・まつり、旅館・民宿経営者などと協力した月山トレッキングや教育旅行など西川町ファンの獲得と固定化を目指したツーリズムや環境学習と連携し、町民の方を始めとする多くの関係者の参加と協力を得ながら、新エネルギーの普及・啓発を推進します。

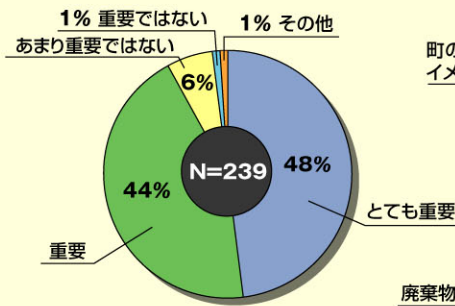
町民の声

平成17年12月に、町内の500世帯に新エネルギーに関する意識調査のアンケートを配布させていただきました。
53%にあたる265世帯の方からご回答をお寄せいただきました。
その調査結果の一部を紹介します。

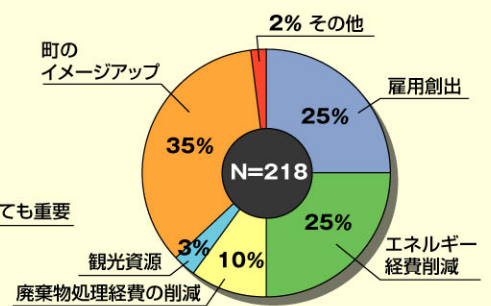
新エネルギーの取組みについて、「とても重要」、「重要」とご回答いただいた方は92%にものぼり、町民の方の新エネルギーに対する意識の高さがうかがわれます。新エネルギー導入後の振興についても「エネルギー経費の削減」のほかに、「町のイメージアップ」「雇用創出」をあげる方が60%をしめ、新エネルギーに対する期待の高さがうかがわれます。

西川町の産業振興のために利用すべき新エネルギーとして最も要望の高かったものは、「森林・木材」(29%)、次いで「太陽光・太陽熱」(22%)でした。また、廃棄物燃料(BDF)製造に係る設問として、菜の花栽培を中心とした資源循環への対応についても、多くの方が積極的に参加する意志を持っていることが分かりました。

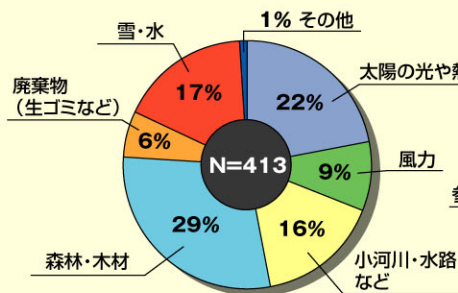
新エネルギーの取組みについて



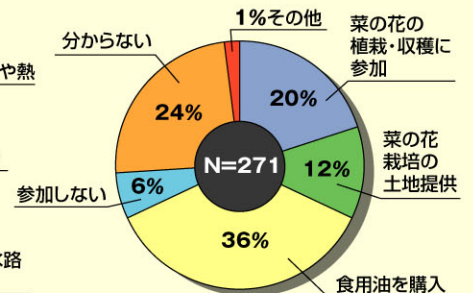
導入後の振興



産業振興のために利用すべき新エネルギー

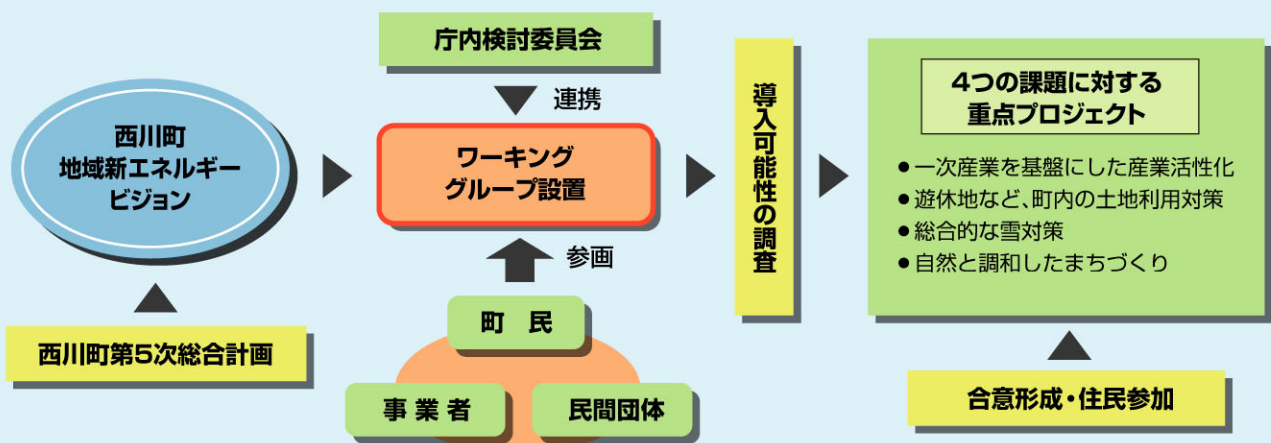


菜の花栽培を中心とした資源循環(BDF製造)への対応



新エネルギー導入プロジェクトの推進

新エネルギーに関する技術革新のスピードは速く、ビジョン策定時には、コスト高で導入が困難であったものが、数年後には普及価格帯になることがよくあります。あわせて、町民の方の環境意識やニーズの変化によって、その都度、ビジョンを軌道修正する必要性が生じてくる場合もあります。したがって、「住民の方への普及」と「最新の技術動向や制度」をその都度反映するため、西川町役場内に庁内検討委員会、住民の方や事業者の方々などの参加する新エネルギー導入のためのワーキンググループ(検討部会)などを設置し、ビジョン策定後の具体的なプロジェクトを推進します。



●このパンフレットに関するお問い合わせは

西川町役場総務企画課

〒990-0702 山形県西村山郡西川町海味510
TEL.0237-74-2111 FAX.0237-74-2601